毛主席画像

毛主席語録

★

外文出版社
北京

毛 主 席 語 錄

*

1966年　　初版発行

出版者　外文出版社

発行者　中国国际书店　(北京)

编号：(日)1050-488

*

1967年3月重印

(06-J-1)

目次

一、共産党……1
二、階級と階級闘争……11
三、社会主義と共産主義……32
四、人民内部の矛盾を正しく処理する……63
五、戦争と平和……81
六、帝国主義とすべての反動派はハリコの虎である……101
七、敢然とたたかい、敢然と勝利する……114
八、人民戦争……123

试读结束：需要全本请在线购买： www.ertongbook.com

九、人民の軍隊……138
十、党委員会の指導……144
十一、大衆路線……163
十二、政治工作……186
十三、将兵関係……204
十四、軍民関係……211
十五、三大民主……216
十六、教育と訓練……225
十七、人民に奉仕する……231
十八、愛国主義と国際主義……238
十九、革命的英雄主義……247

二十、勤倹建国……254
二十一、自力更生、刻苦奮闘……264
二十二、思想方法と工作方法……276
二十三、調査研究……315
二十四、思想意識の修養……325
二十五、団結……345
二十六、規律……349
二十七、批判と自己批判……354
二十八、共産党員……369
二十九、幹部……381
三十、青年……398

三十一、婦人……406
三十二、文化・芸術……412
三十三、学習……419

一、共産党

われわれの事業を指導する核心的な力は中国共産党である。われわれの思想を指導する理論的基礎はマルクス・レーニン主義である。

中華人民共和国第一期全国人民代表大会第一回会議の開会の辞（一九五四年九月十五日）

革命をおこなうからには、革命政党が必要である。革命的な政党なしには、マルクス・レーニン主義の革命理論と革命的風格にもと

づいてうちたてられた革命政党なしには、労働者階級と広範な人民大衆を指導して帝国主義とその手先にうち勝つことはできない。

「全世界の革命勢力は団結して帝国主義の侵略に反対せよ」（一九四八年十一月）、『毛沢東選集』第四巻

中国共産党の努力がなければ、また中国共産党員が中国人民の大黒柱とならなければ、中国の独立と解放は不可能であり、中国の工業化と農業の近代化も不可能である。

「連合政府について」（一九四五年四月二十四日）、『毛沢東選集』第三巻

中国共産党は全中国人民の指導的核心である。このような核心がなければ、社会主義の事業は勝利をおさめることができない。

中国新民主主義青年団第三回全国代表大会に出席した代表全員と会見したときの講話（一九五七年五月二十五日）

規律があり、マルクス・レーニン主義の理論で武装し、自己批判の方法をとる、人民大衆と結びついた党。このような党に指導される軍隊。このような党に指導される革命的諸階級・革命的諸党派の統一戦線。この三つは、われわれが敵にうち勝つ主要な武器である。

「人民民主主義独裁について」（一九四九年六月三十日）、『毛沢東選集』第四巻

试读结束：需要全本请在线购买： www.ertongbook.com

われわれは大衆を信じ、党を信ずるべきであって、これが二つの根本的な原理である。もしもこの二つの原理に疑いをもつなら、なにごともなしとげることはできない。

「農業協同化の問題について」（一九五五年七月三十一日）

マルクス・レーニン主義の理論と思想によって武装された中国共産党は、中国人民のあいだに、新しい工作作風をうんだが、それは主として理論と実践を結合する作風、人民大衆と密接に結びつく作風および自己批判の作風である。

「連合政府について」（一九四五年四月二十四日）、『毛沢東選集』第三巻

偉大な革命運動を指導する政党が、革命の理論もなく、歴史の知識もなく、実際の運動にたいする深い理解もないとすれば、勝利をかちとろうとしてもできるものではない。

「民族戦争における中国共産党の地位」（一九三八年十月）、『毛沢東選集』第二巻

われわれはかつて、整風運動は「普遍的なマルクス主義的教育運動」である、といったことがある。整風とは、全党が批判と自己批判を通じて、マルクス主義を学ぶことである。整風のなかで、われわれはかならずマルクス主義をいっそう多く学びとることができる。

「中国共産党全国宣伝工作会議における講話」（一九五七年三月十二日）

いく億という中国人にりっぱに生活ができるようにさせ、経済的にも立ちおくれ、文化的にも立ちおくれたわれわれの国を、富裕で、強大な、高い文化をそなえた国に築きあげること、これはなみなみならぬ任務である。われわれが整風をおこなわなければならず、現在も整風をおこない、将来も整風をおこなわなければならず、われわれの身についている誤ったものをたえずはらいおとさなければならないのは、われわれがこの任務をよりよく荷ないうるようにするためであり、改革をこころざす党外のすべての人びととよりよく協

力して仕事をやりうるようにするためである。

「中国共産党全国宣伝工作会議における講話」（一九五七年三月十二日）

政策は、革命政党のあらゆる実際行動の出発点であるが、同時に、行動の過程および帰結となってあらわれる。革命政党としては、いかなる行動もすべて政策の実行である。正しい政策を実行しているか、誤った政策を実行しているか、そのどちらかであり、ある政策を意識的に実行しているか、盲目的に実行しているか、そのどちらかである。いわゆる経験とは、政策実行の過程であり、帰結である。政策は人民の実践のなかで、つまり経験のなかで、はじめ

てその正確か否かが証明され、また、その正確さの程度と誤りの程度が確かめられる。しかし、人びとの実践、とりわけ革命政党と革命的大衆の実践は、あれこれの政策とつながっていないものはない。したがって、ある行動をとるには、まえもって、状況にもとづいてきめられたわれわれの政策を党員と大衆にはっきり説明しなければならない。そうでなければ、党員と大衆は、われわれの政策の指導から離れて、盲目的に行動し、誤った政策を実行することになる。

「工商業政策について」（一九四八年二月二十七日）、
『毛沢東選集』第四巻

わが党は中国革命の総路線と全般的政策をきめ、またそれぞれの具体的な工作路線とそれぞれの具体的な政策をきめている。だが、多くの同志は、わが党の具体的な個々の工作路線と政策はおぼえていても、わが党の総路線と全般的政策は忘れがちである。もしほんとうにわが党の総路線と全般的政策を忘れているならば、われわれは盲目的な、不完全な、ぼんやりした革命家となり、具体的な工作路線と具体的な政策を遂行するにあたって、方向がわからなくなり、右に左に動揺し、われわれの工作を誤らせることになるであろう。

「山西―綏遠解放区幹部会議での講話」（一九四八年四月一日）、『毛沢東選集』第四巻

试读结束：需要全本请在线购买： www.ertongbook.com